

事業&活動報告

市民活動交流サロン実施報告【プロボノって何?】

センターでは、市民活動団体やNPOのメンバーはもちろん、どなたでも自由に参加し、交流できる場として「市民活動交流サロン」を企画。9月28日に、今年度の第1回サロンを開催しました。今回のテーマは「プロボノ」。これは仕事などで培った経験や知識を活かして、既存の市民活動団体等の困りごとを解決するという、ボランティアの新たな取り組み。現役の会社員でも参加しやすいことから、近年注目を浴びています。

サロン当日は「プロボノの言葉は知っているが、よくわからない」「ボランティア登録したいけど、自分にできるかな」等いろいろな立場の方10名が集まりました。

冒頭にプロボノの概要説明があり、参加者からは「仕事とボランティアの両立は可能か」「3ヶ月の短期間で、困りごとの解決ができるのか」「必要な知識とスキルを

持つボランティアが見つかるのか」などの質問が出ていました。

プロボノは、事前に支援してほしい団体にヒアリングを行い、ワーカー（ボランティア登録した方）にどのような活動をしてもらうか等の方向を決めた上で、マッチングを行うそうです。その後、団体とワーカーとで活動の目的と目標、スケジュール等を決め活動が始まるとのこと。市民活動団体も、ボランティアしたい方も、両方に有用な「プロボノ」の仕組み。これから広がっていきそうです。



「ちばさぽセミナー」認定企画のご紹介

「ちばさぽセミナー」とは、登録団体が主催し、当センターを会場にして開催する公益性のある講座などを、広報や会場の優先予約により、当センターがバックアップする枠組みです。11月以降、新たに開催される2つの企画をご紹介します。

主催：NPOマネジメント支援協会 「就労へ50年の道程(みちのり)」

中高年齢者で離職中の方や、定年間近の方を対象に、講師が50年の勤務経験に基づいた講話をした後、参加者とともに、高齢者の社会参加と再雇用をテーマにした話し合いなどをします。再就職に向かって、一歩踏み出してみませんか？

日時▶11/28(木) 9:30~11:00

会場▶千葉市民活動支援センター 会議室

参加費▶無料

定員▶20名(申込み先着順)

申込み・問合せ▶TEL&FAX 043-237-2788

(藪順光(やぶよりみつ)さん 8:00~17:00)

主催：千葉終活支援ネット 「笑って楽しく落語+終活」

落語・笑いを取り入れて楽しく開催する、終活についての講座です。自分史づくり、家族信託、死後事務など、各回でテーマは異なりますが、1回のみ参加も可。相談会もあります。

日時▶12/13、1/10、2/14(いずれも金)

10:00~11:30=セミナー、

11:30~12:50=無料相談会

会場▶千葉市民活動支援センター 会議室

参加費▶1回500円(資料代) 定員▶20名(申込み先着順)

申込み・問合せ▶TEL 090-8720-1513

j.kimizuka.office@gmail.com(君塚さん)

ミニコラム

ちばさぽの風 vol.34

“支援する人を支援する”という視点

令和元年台風15号および19号が日本を直撃し、千葉市を含む各地に甚大な被害をもたらしました。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

今回の災害を目の当たりにし、「手を貸したい、力になりたい」と思わない方は、いなかったでしょう。しかし、家屋の損壊はなかったけれど停電の影響があったり、自身の日常生活を維持することに精一杯だったり、具体的な支援を行うことはできなかった、という方も多くいるのではないのでしょうか。

一口に支援と言っても、被災地でのボランティア活動や支援物資の提供、寄付(ふるさと納税を含む)など、様々な方法があります。また物資の提供に関しては、ニーズが時間の経過とともに変わることや、保管や仕分けに手間がかかるといった問題が伴うことが知られるようになってきました。千葉市ではこうした問題に対応すべく、民間事業者

のサービスを活用して、必要な物を必要な数だけ集める(寄付と同様な感覚で市民に購入をしていただく)という取組も行われ、注目を集めました。

こうした「支援をしたい人」を対象とした情報は、まだ十分には発信されていないのかな、ということを感じます。情報の正確性も問われますし、むやみに拡散させればよいというものではありませんが、「支援をしたかったのにできなかった」という人を減らすには、情報を一元化し、広く、わかりやすく発信する仕組みが必要でしょう。

復旧工事に従事する人にサービスを行っている飲食店がある、というニュースを目にしました。“支援する人の支援”という言葉が浮かびました。前述したような情報発信も、同じ種類の支援だと言えるでしょう。当センターでも災害時は、“支援する人の支援”という視点から、できることに取り組んでいければと考えています。(は)